

# 対話的ギャラリートーク型鑑賞指導の教材に関する考察【3】

— 『MITE! ティーチャーズキット 3』を用いた実践から —

吉田 貴富

A Study of Teaching Materials (Works of Art) Used for Interactive Gallery Talk Method Type  
Appreciation 【3】

— A Result of The Practice Using “MITE! TEACHER’S KIT 3” —

YOSHIDA Takatomi

(Received August 5, 2010)

キーワード：美術教育、鑑賞、対話型鑑賞、教材

## 1. 経緯と目的

本稿は、吉田貴富「対話的ギャラリートーク型鑑賞指導の教材に関する考察—『MITE! ティーチャーズキット1』を用いた実践から—」（大学美術教育学会誌第40号、2008年）、「対話的ギャラリートーク型鑑賞指導の教材に関する考察【2】—『MITE! ティーチャーズキット2』を用いた実践から—」（同誌第41号、2009年）の継続研究である。対話型ギャラリートークを学校現場に応用する際にしばしば疑問や悩みとして上がるのが作品選定の問題である。そこに登場したのが『MITE! ティーチャーズキット』であった<sup>1)</sup>。このキットは、具体的なマニュアルやシミュレーション事例と作品の図版が掲載された冊子、それにパソコンによる投影を前提として図版を収めたCD-ROMがセットにされた形式で全3巻編成。第1巻が小学校3・4年生対象、第2巻が小学校5・6年生対象、第3巻が中学生対象となっている。各巻とも10のレッスンから成り、各レッスンには一定のテーマや共通性を持った3枚の図版が選定されている。

本研究の目的は、このキットに選定されている作品の、対話的ギャラリートーク型鑑賞における教材としての適性を検証することである。今回は、同キット第3巻『MITE! ティーチャーズキット3』を用いた実践結果を基に対話型鑑賞の教材についての考察を進めるものである。

## 2. 方法

### 2-1 対象

第1・2報同様、実践の可能性を優先し大学生を対象とした。キット第3巻を実践するにあたって、可能ならば第1・2巻経験者を対象としてみたかったが、それが可能な授業

や対象が存在しなかったため、積み上げ型の学習にならなかった。しかし、同キットの第2巻や第3巻を実践する場合に、かならずしも前段階のキットを体験した人を対象とする訳ではないことを考えるなら、対象が対話型鑑賞未経験者であっても一定の成果は得られると予想した。

## 2-2 実験（実践）に用いた授業

発表者が山口大学において担当している共通教育「芸術史（美術史）」の授業を用いた。開設期は2009年度前期、第1 Semester。水曜日3・4時限。対象者は全学部。受講者数（受講登録者数ではなく、最終回まで受講した人数）は29名。

全10レッスンを毎回1レッスンずつ順次実践していった。90分授業の最初に、毎回およそ30分間の予定で臨んだ。

## 2-3 記録

前年度はワイヤレスマイクを用いて改善を図った。アシスタントが発言者の元までワイヤレスマイクを運び、教室のスピーカーから出た音声を教卓上に置いたICレコーダーで録音するという方法であった。今回は、教室にワイヤレスマイクとスピーカーの設備が無く、教室も小さかったため、拡声器を使わず、授業者（ファシリテーター）がICレコーダーを持って発言者の近くへ行き音声を直接録音した。

## 2-4 アンケート

全10回分の全図版30点を、『MITE! ティーチャーズキット3』冊子からスキャンし、各回3枚の図版をa, b, cとし（例えばLesson1の3作品を各々1a, 1b, 1cとし）、A3判用紙に全図版30点をモノクロで印刷したプリントを全受講生に配付し回答をさせた。回答総数29名。

設問は前年度までと同じで、考察の主な材料となるのは以下の設問への回答とトークの展開・内容である。

- 1 (1) . 「比較的考えやすかった（意見を出しやすかった）作品」を、いくつでも構わないので挙げて下さい。
- 1 (2) . それらの中で「一番考えやすかった（意見を出しやすかった）作品」はどれですか、一つ挙げて下さい。
- 2 (1) . 「比較的考えにくかった（考える糸口がわからなくて困った）作品」を、いくつでも構わないので挙げて下さい。
- 2 (2) . それらの中で「一番考えにくかった（考える糸口がわからなくて困った）作品」を一つ挙げて下さい。
3. 受講生みんなとのトーク（聞くことを含む）によってあなた自身の思考が最も深まった作品、即ち「最初に見た時の自分の思考」と「みんなとのトークによって展開した自分の思考」とのギャップが最も大きかった作品はどれですか？一つ答えてください。

## 3. 結果

実践した対話的ギャラリートーク型鑑賞の記録の概要を【資料1】として後掲する。ここでは第1・2報と同じく、紙幅の都合もあり、発言の逐語的再現ではなく、キーワードや要点を残しながら要旨としてまとめた。実際には、受講者はもっと豊かでニュアンスに富んだ発言をしているし、ファシリテーター（進行役）吉田も、対話型鑑賞進行の基本である受容・肯定・賞賛・復唱・言い換え・結び付け・焦点化・鼓舞・まとめ等を行い、発展的なトークや解説を行っている。

アンケートの集計結果を【資料2】として後掲する。

## 4. 考察

### 4-1 鑑賞者にとって考えやすい作品・考えにくい作品

1（1）において、全作品が1ポイント以上を獲得している。全30作品がすべて支持されているのである。これは第1巻・第2巻と同様の結果である。

以下の論述において、たとえば「L. 1エルンスト」と記述した場合には、「レッスン1に掲載されているエルンストの作品」という意味である。「掲載作品」と記す場合もある。単に「エルンストの作品は」と記せば、掲載作品を含めたエルンストの作品全般を指す。

1（1）において最多ポイントを獲得したのはL. 6マンテーニャとL. 5ミケランジェロ・ピストレットで各11ポイント。続いて、L. 2シャガール10ポイント、L. 5トニー・クラッグ9ポイント、L. 3古賀春江8ポイントである。ミケランジェロ・ピストレットとトニー・クラッグはいずれもインスタレーションであり、後述するように、アメリカが同キットのマニュアルで述べている作品選定の基本方針に反するとともに、筆者の予想では反応が鈍いと思われたが、予想に反する高評価である。L. 8森村泰昌も難解かと予想したが、結果は7ポイントと好評であった。

1（2）では、1から4ポイントの間で18作品に分散したが、最多はL. 5トニー・クラッグ4ポイント。次いでL. 8ジョージ・シーガル3ポイント、L. 1マレーヴィチ、L. 3古賀春江、L. 4マグリット、L. 6マンテーニャ、L. 7浅原清隆、L. 9デルヴォーが各2ポイントである。

トニー・クラッグとジョージ・シーガルのインスタレーションが好評なのも意外であった。他は、具象画で物語性が強い絵画作品であるという共通性が見られる。

2（1）において、L. 5ミケランジェロ・ピストレットを除く29作品が1ポイント以上を獲得している。これも第1巻・第2巻と同様の結果である。

2（1）において最多ポイントを獲得したのはL. 3中山岩太13ポイントで、次いでL. 1エルンスト、L. 10マックス・クリンガーが各12ポイントである。3ポイント離れてL. 4マグリットとL. 5ビル・ヴィオラが続く。

エルンストとマックス・クリンガーとビル・ヴィオラの結果は、筆者の予想通りであった。

エルンストの掲載作品は、ドアに描かれただまし絵的な絵であるが、立体物であり、いわばオブジェ的、インスタレーション的な作風であることから、スライドを通しての鑑賞に向かないのではないかと予想された。

マックス・クリンガーとビル・ヴィオラの掲載作品は、図版で見ても、プロジェクトで見ても、細部がわかりづらい。何が描いてあるか（映っているか）わからないことが、考えにくい原因であると思われる。さらに、後述する内容でもあるが、マックス・クリン

ガーについては連作版画のうちの1点であること、ビル・ヴィオラについては映像作品の1カットであることも、わかりにくい原因であると考えられる。

中山岩太とマグリットの作品については予想外であった。中山岩太の掲載作品はナラティヴな作風ではなく、いわば感覚的なコラージュであるからであろうか。マグリットの作品の多くは小学校高学年以降の児童・生徒・大学生に人気が高いので、掲載作品にも特に問題はないと予想したが、意外な結果であった。

2 (1)においてポイントが高く、かつ1 (1)においてポイントが低い作品は「考えにくい作品」だと言える。L. 1 エルンスト、L. 3 中山岩太、L. 5 ビル・ヴィオラ、L. 10 マックス・クリンガーなどにその傾向が強い。

#### 4-2 トークによって思考が深まった作品

設問3では、最高4ポイントで、全30作品の約半数の16作品が挙げられた。

L. 9 ルイーザ・ヴィダルが最高で4ポイントである。この作品については、資料1 トーク概要にあるとおり、初発の「貧しさ」という感想から、「喪服」「死」「母性」「愛情」へと、幅広くかつ建設的にトークが展開したことがわかる。何が描いてあるかが明快でナラティヴな具象絵画である点が、見て考えるのに適していると言える。

次いで3ポイントが、L. 4 ヘレン・レヴィット、L. 8 ジョージ・シーガル、L. 8 森村泰昌である。

ヘレン・レヴィットの掲載作品については、男女2人の関係について対照的な解釈が出されて興味深かった。

ジョージ・シーガルのインスタレーションについては、細部が見えにくいにもかかわらず、受講者が豊かな想像力をはたらかせて、様々な解釈を述べた。

森村泰昌の掲載作品については、苦笑から始まり、トークが進むに連れて、ベールが一枚一枚剥がされていくかのように、作品の細部への注視と解釈が述べられ、この作品が単なる思い付きやパロディではないことに気づかされ、作者の意欲や様々な意図を感じさせられる方向で価値付けられていったことがトーク概要に記されている。

#### 4-3 細部が見えにくい作品

L. 10 マックス・クリンガーの作品については既に述べた。L. 3 シャヴァンヌは、女性の右手からペガサスにかけての描写が見えにくい。今回の実践では、ファシリテーターがフロア鑑賞者に細部を注視させながら補足的に説明した。これは対話型鑑賞において本来的・理想的な進め方ではない。

L. 4 ティツィアーノについて、キットの冊子見開き右下のコメントには「胸元に紙切れがのぞいています。ラブレターかな？よく見ると作者の名前『Tiziano』の文字」とあるが<sup>2)</sup>、プロジェクトを通して見ると、文字はおろか紙切れさえも発見しにくい。実際に、今回の実践においても、受講生から紙切れに関する指摘は無かった。

#### 4-4 見誤り

対話型鑑賞においては、しばしば見誤りが起きる。それが鑑賞者同士によってトークの中で発見・修正される場合もあれば、誤認が最後までそのままにされる場合もある。L. 10 ジェン・グエン=ハツシバのように、鋳(もり)だと思えたものが、実は支えの棒であっ

たというような展開や、L. 10マックス・クリンガーにおいて「生首」とされたものが、途中で「シャツ下の膝（胴体・下半身）」が発見されたというような展開は、その意外性によって驚きや揺さぶりをもたらし、トークや思考をエキサイティングなものにする。

しかし、途中で修正されることなく、見誤りの上にトークが積み重ねられていくことは好ましいことではない。今回の実践の中では、L. 7北野恒富において、カメラを「鞆」だと見誤った意見が出されたのに対して、ファシリテーターはカメラに焦点化し全員に細部を確認させて軌道修正をはかった。

どのような作品を教材に用いても見誤りが起きる可能性はある。しかしその可能性を小さくすべく、「何が描いてあるか明快な作品」を選定することが大切である。

#### 4-5 部分を見せることの問題

作品全体でなく部分が掲載されている図版がいくつかある。L. 2《ガンタパ》、L. 4ティツィアーノである。

L. 2《ガンタパ》は、いわゆる西洋的なタブロー形式の作品ではないので、部分を取り上げてもさほど問題はないのかもしれない。しかしL. 4ティツィアーノについては、筆者は実践前から問題があると考えていた。どう見ても絵画作品として不自然だからである。実践してみると、そのことがトークの冒頭において受講者から指摘される結果となった。

L. 7ロバート・ウィルソンも、立体作品・インスタレーションではあるが、やはり部分である。掲載作品を、この作品の全体写真と比べれば、良し悪しとは別に、各々から受けるイメージが大きくことなることは明らかである。

#### 4-6 連作の問題

連作のうち1枚である作品がいくつか選定されている。写真作品にしばしばあるような、大きなテーマのもとでのシリーズ作品ではなく、もっとストーリー性が高い連作である。L. 6トレイシー・モファット、L. 9デルヴォー、L. 10マックス・クリンガーがそれに当たる。今回筆者は、実践前の準備段階で各作品について可能な限り情報を集め、連作のうち入手可能な図版を集めた。それらを見ると、1枚だけを見せられていた時のもどかしさは氷解し、描かれている物語が鮮明化し、掲載作品の解釈も大きく変わっていった。このことを今回の受講者にも体験してもらいたいと思い、トレイシー・モファット《何かもう少し》については、トーク後に連作全9枚を鑑賞させた。

#### 4-7 立体作品・インスタレーション

アメリカは、同キット冊子中「作品について」において次のように述べている。

子どもたちはどんな作品でも話をしますが、やはり子どもの鑑賞に向けた作品とそうではない作品があります。

(中略)

本書で取りあげた作品は、平面に映写されることを考慮して、視覚的に強くはたらきかけるものを選んでいきます。したがって、四方から見る彫刻や立体作品、抽象作品、インスタレーションは省き、物質としての存在感やスケール感に依存した作品も避けましょう。こうした作品は美術館で現物を見るほうがよいので、その機会を待ちましょう<sup>3)</sup>。

この原則に自ら背くかのように、このキットには立体作品やインスタレーションが選定されている。第3巻においては、L. 1エルンスト、L. 5ミケランジェロ・ピストレット、L. 5トニー・クラッグ、L. 7ロバート・ウィルソン、L. 8ジョージ・シーガルである。L. 5ミケランジェロ・ピストレットのように、考えやすく、トークが盛り上がる作品もあるが、立体作品やインスタレーションは、細部や見えない部分がどうなのかかわからないというもどかしさがつきまとい、フロア鑑賞者の主体的な鑑賞の前に、ファシリテーターが説明をせざるを得ない場面が多くなる点は、この手法の教材としての適性の低さを示している。

#### 4-8 映像作品

L. 5ビル・ヴィオラ、L. 10ジュン・グエン＝ハツシバはいずれも映像作品の1カットである。

L. 5ビル・ヴィオラについて、冊子見開き右下に記された注意書きには「服を着たまま水中に飛び込んだ人を撮ったビデオ作品です」とあるが<sup>4)</sup>、図版に見ることの出来るイメージは、筆者の解釈も今回の受講者の解釈も、上から落ちてくる水に打たれている場面であり、冊子のこの記述と、図版から受けるイメージは合致しない。はじめに意見がなかなか出なかった原因は、「何が描かれて(映って)いるのかわかりづらい」ことだと思われる。

いずれの作品も、トークが遠回りしている感は否めない。トークのあとで、映像を鑑賞するのが理想的なのであろうが、著作権等の問題もあって、その実現は容易ではない。

#### 4-9 アメリカ人の感覚、日本人の感覚

受講者の一人がアンケートに「2c、9bなどは、美術のヌードに慣れていない人は意見を言いにくかったと思う」と記している。筆者の対話型鑑賞指導の経験上、日本の大学生は性的なことを話題にしない。

アメリカは、キット冊子中の「Simulation 3」において、「13～15歳の生徒の典型的な対話例で模擬トークを体験してみましよう」として、「だって、キスしてるときって、こんな感じにもなったりして(クスクス笑い)」「ほら、強烈になっちゃったりしてさ(さらにクスクス笑い)」と記している<sup>5)</sup>。日本の場合、大学生でもこのように開放的なトークは期待できない。アメリカの描く「典型」とは、一体どこの国のどのような民族のどのような文化の中学生の典型的なのかは不明であるが、日本で発売されたキット集に掲載された模擬トークであるから、アメリカは日本の中学生を対象とした場合にでも同様の展開を予想したのであろう。アメリカは日本の中学生の実態を見誤っているのではないだろうか。

また、L. 10マックス・クリンガーについて冊子右下のコメントには「かなりクレージーでしょう？」とある<sup>6)</sup>。日本人にこのような感覚は稀である。実際に今回の実践においては、大学生の多くがこの作品と真剣に向き合い、「クレージー」とは正反対と言えるような非常に深刻な事態や状況を読み取っている。

### 5. 結語

今回の実践では、大学生ならではの教養・レディネスによってトークが成立した場面が多々あった。美術に関するもののみならず、神話、宗教、文学作品、映画、地理、歴史、科学などに関する知識・理解である。もちろん、アメリカが対話型鑑賞において「フロア鑑賞者が知っていることを語ることを嫌うように、これらが自由な鑑賞を妨げる方に作用することもしばしば起こるのであるが、このキットの対象年齢が中学生とされていることを考えるなら、これらの作品を基に、はたして中学生がどのような思考やトークを繰り返すのだろうか。それは今後の実践・研究に俟つほかはない。

## 註

- 1) アメリカ・アレナス：MITE!ティーチャーズキット1，同2，同3，淡交社，2005.
- 2) アメリカ・アレナス：MITE!ティーチャーズキット3，淡交社，2005，p.31.
- 3) 同，pp.55,56.
- 4) 同，p.33.
- 5) 同，p.21.
- 6) 同，p.43.

## 【資料1】

### MITE3 トーク概要

S：学生，T：授業者・ファシリテーター（吉田）  
1作品ごとに示された時間は、各レッスンにおける累計の所要時間である。たとえば、2枚目の後に示された時間は、1枚目と2枚目の所要時間の合計である。

【1】2009.4.22.（水）

(Vol.3, Lesson 1)

1. カジール・マレーヴィチ『乾草作り』1911/28年、川村記念美術館

T：鎌を持っている。ズボンとのコントラストの付け方が対になっている。  
S：明暗がはっきりしていて、人間も地面の緑もやさしい感じではない。  
T：やさしい感じではない、あえて言葉で言うとか？  
S：とげとげしいというか・・・  
S：鎌と、何か食べ物みたいな物を持っているように見える。口元は鉄みたいなマスクをしていて、どうやってあれを食べたのかと。  
T：例えどどんな食べ物ですか？  
S：鮭っぽい色があります。  
S：鎌を持っているので、狩とかに行ったのかなと。  
S：体が、光沢感があって、ロボットみたいな感じがする。  
S：ズボンも刃物に見えるし、地面も刃物に見える、鋭い線だなと。  
S：背景が何なのかわからない。あの緑の山みたいなのは何なのだろう。  
S：一番手前の人のズボンと上着みたいなところは左上から光が当たっているように、腰のあたりの赤いところは、右側から光が当たっている。  
S：中心の人物と背景はすごく対照的。中心の人物の上着と下のズボンが補色同士になっていて、周りの緑の景色から浮いて、毒々しい感じがして、背景の田舎の風景にはそぐわない。背景にいるその他大勢の人物はそれなりに調和しているけど、鎌とか鉄のマスクはさらにその違いを際立たせていて、それと緑の後の空の色がリンク。  
S：背景のあの山みたいなのが、乾草、何か刈ったものを置いているような気がして、その後にあるテントが移民みたいなイメージを出していて、国で言うところのモンゴルみたいな感じになんかせせこましい感じがする。  
S：服装が現代感のないけど、昔のじやないなら外国の服装かなと。  
T：同じ田舎風景を描いていても、ミレーの「牧穂拾い」とか「晩鐘」とかありますよね、あんなに写実的な絵とはずいぶん趣が違う絵ですね。（16分10秒）

2. 森山大道『少年（2）・宮城県黒島町』1973年、宮城県美術館

T：これはもう見てわかるとおりの写真なんです。絵ではなくて写真です。  
S：めちゃくちゃ目つき悪い、態度も悪い子どもだなーと。（笑）最近の子どもじゃないんだと。ロスト・ジェネレーションっていう時代の高校生が荒れた時代の態度と幼い子どもがミックスされたような感じ。  
S：真ん中の少年だけ光が当たっている感じが。ちょっと斜めに写真を撮っている感じが、悪い少年の感じを表しているのかな。  
S：真ん中の子どもの目つきがすごく悪かったり、ポケットに手を入れたり、白黒の写真だし、至る所でホラー的な怖さのある写真だなと  
S：悪そうなポーズに見えるけど、服装はちゃんとしている。親から着させられているけど内心は反抗したんだよ、みたいな子どもの内面。  
S：左右が暗く真ん中が明るく、後の車が遠そうであっているで怖いイメージがある。男の子が左右の暗さでこっちに近づいてきているような。  
S：こっちの子どものなかに、すごく殺意みたいなものを感じて、こっちがたじろいでしまう。画面が斜めになっているのも、子どもがこんな目つきをすることに戸惑いとか、そういうものを語っているのかなと。  
S：穴れるというよりは、親や世間に恨みを持っているという感じ。足が完全に写っていないので、その子は生きているのか亡きかなのか。  
S：子どもの周り、緑だけちょっと白く白んでいるので、この写真は、普通に撮ったのじゃなく、合成ではないのかなと感じました。（26分00秒）

3. マックス・エルンスト『入る、出る（ポール・エリュアール邸のドア）』1923年、川村記

### 念美術館

S：左の木が向こうにあるのかこっち側にあるのか、よくわからない。  
S：中心の木が一番手前にあるように描かれているように見えるが、扉の凸凹みたいなところにちゃんと描かれているのがあの中心の木だけに、女の人は一番手前にいるはずなのに、枯れてないのはなぜ。  
S：女の人が、片方だけ靴下みたいなものを履いているのは、なぜかな？  
S：女の人の服の下半分と首がすっぱり分かれていて色が違うが、髪の毛は地毛なのかつらなのか、わからない感じがする。  
S：ドアの模様みたいなところを透かしてこちらから見えるよう。女性は目に色がかかっているマスクみたいな見える。女性の格好がリラックスして緊張感が無いので、女性はこちらを見ていないような感じ。  
S：女性の体に使われている緑色が一番端の木の色と一緒。顔の目の部分が覆われている、その緑も女性がしがみついている木の色と同じ色、関連性があるのかなと。  
S：女の人がしがみついている木、上の部分の部分だけ見たら、木の方が前にあって、女の人の右足の方が後ろにあるみたいな感じに見えるけど、下の方を見たら、女の人の足のほうが前にあって、木が後ろにあるっていう、なんか変な感じ。  
S：女の人が身につけている色が緑とか黄色とか赤とか、葉っぱを体現しているのか。  
S：扉の部分の赤とか使った意味で、だから上から春・夏・秋・冬っていうのを表現しているのかなと。右足は、木ですごく葉っぱが全部散っちゃうけど、左足は、ヨーロッパの方だと常緑樹も多いから、四季の葉っぱを表現しているのかなと。  
T：みなさんのお家にこんなドア欲しいですか？（笑）  
毎回3枚観てもらいます。その3枚には、今気づいたか何かの共通性がある。あるいは共通するテーマみたいなものがある。今日の共通点、何だったと思う？振り返ると。今日の3作品の共通点。何か一言どうぞ。（前の席から、歩きながらレコーダーを向けて）  
S：明暗とか使っている。  
T：位置関係？  
T：どういう位置関係？  
S：遠近とか・・・2枚目だったら、色を使って遠近感を出していたり、この絵でも遠近感が出ていたりする。特徴的な遠近感があったり。  
S：人間がテーマで言うか、主体になっている。  
T：人間がテーマ、ですね。描き方も、収め方も、人間一人が真ん中にドーンと収めてありましたよね。それ共通点ですよね。あと私が私が見るところでは・・・さっき誰か「穏やかな感じではない」と言ってくれたけど、なにが本当にほわほわとして幸せだな、穏やかだっていう、そういう作品ではなかったですね、3枚とも。（38分01秒）

【2】2009.5.13.（水）

(Vol.3, Lesson 2)

1. クロード・モネ『バラ色のポート』1890年、ポーラ美術館

S：女性二人が乗っているのはボートだと思うけど、水と草の境界線がすごくわかりにくくて、作者もそれを意識して描いているのかなと。  
S：ボートの色が赤、上に乗っている女性が白、周りも緑、すごく映えて見える。  
T：そうですね。緑と赤を？なんで言うか知ってますか？  
S：・・・  
T：お互いを引き立てあう。非常に目立つ配色。緑と赤。中学校小学校で教わってませんでしたか？  
S：なんか聞きました。  
T：なんか聞いたね。（笑）補色ですね。補色。  
S：女の二人が二人いるけど、それぞれ違う方向を見ていて、特に右の女の人の視線が、オールの前一点が何をみているのかよくわからない。  
S：赤は水にきれいに映っている。結構はっきり、いっぱい映っているんですけど、人とボート？はあまり映っていない。  
S：緑がすごく新しい、夏の色だなと。水もすごくきれいで、なんだか涼しげだな。  
S：二人が白っぽい服を着ていて、清潔感があって、新緑で、瑞々しい絵だなと。  
S：細長い形のをより細長く見せるように描いているように感じた。  
T：細長いものという？  
S：えーっと、カヌーですかね。僕が描いたら多分もっと広がると思う。オールも、もうちょっと短くなるんじゃないかな、と。  
S：下の草と言うか新緑について、僕は混沌として、もやもやとしているようなイメージがあって、白い服の少女とはミスマッチだなと。  
T：画面のどういふもの、という描き方から混沌と感じるんだろう？  
S：無造作にばーっと草が存在していると言うか。そんな感じで。

T：非常に対照的な受け止め方、いいと思いますよ。

S：画面の左下の部分が青っぽくなっているのは水面に映った夜空だとか。だからこの絵は今ぐらいの季節の晴れの日かなんかのイメージかな。  
S：ポートが長く伸びて藍が透く見える。だから結構不安定な感じを受けて、ちょっと乗り出しただ落ちちゃいそうな感じを受けました。  
S：陰影がすごくはきりしてて、ちゃんと陰のところが黒いから、すごい目差しの強い時だなって。品の良さみたいな感じがポートを漕げてるってことは、流れがすごいところだから、水の中に驚くと苦さとかいっぱいあるところだと思って、それが透けて見えるってことは、この水はとてんで澄んでいるんじゃないかと思っちゃった。  
S：ポートを漕いでいるのに、波が無いのはちょっと不思議だなって。水面の揺れている感じがすごく出ているのに、オールを漕いでいる時に丸い波が出たり、ポートの先から三角の波が出ているような感じが無い、漕いでいるのかわからないのか。  
S：人が写るってのは、上は女性二人で白くぼんぼん感を感じ、そこから下は黒っぽいような、トーンが静かな、心の内面みたいなものを描いている。ポートは普通、女性と男性で乗って男性が漕いでいるという感じがするが、なぜ、人気（ひとけ）の無い所でも女性が二人なのか、そして目線を合わせていないのか、この絵には本当に何が面白いのか、それとも何かがいる所では話せないようなことを話しているのか。  
(13分30秒)

2. マルク・シャガール『町の上で、ヴィテブスク』1915年、ボラー美術館  
S：特に男の人が何かから逃げていくような。顔の方向と、体のポーズ、顔の表情も何かから逃げていく感じ、その何かから、怖いものかなんなか。  
S：人があんな様子で見るっていうのは、作者はあんな世界を描きたかったのかな。  
S：町と全部赤みを帯びていて、地獄が丸いということを表していて、自分たちは結構高い所にいるんだというイメージ。  
S：二人の間は、すごく顔も青白く見えて、難しい体勢をしているから、もしかしたら生きていないのかなかなと思いました。  
S：町空の描き込みが全く無くって、人物が目立つような感じ。  
S：男性の顔は暗いけど、町の色は鮮やかで、女性の顔もちょっと盛しそうに見えてので駆け落ちのシーンなのかなって。男性はよく見なくちゃいけないって不安。  
(27分06秒)

3. 『心の聖者ガタンバ』(男性) 東チベット、19世紀、ルービン美術館、ニューヨーク  
S：さっさと絵と同様、女性の方は喜んでる感じ、男性の方は必死な感じがする。  
S：多分聖者の絵だと思う。円形の中にいるのが神様みたいなもので、男性が持っているものが仏教の持ち物によく似ているので、神様を呼んでいるのか、そういう儀式的なもの絵のよう。  
S：『ブダ』のマンガに、悪魔が信気を使って誘惑してきた話があったような気がするので、この男性はブダじゃないかと思う。女の方は誘惑に引き込まれる存在で、でもそれに男性が、観音様が誘惑に負けないように必死にしている絵。  
S：男性がすごく必死。仏教の道具みたいなものを塗って、神様みたいな人から逃げている。  
S：女の方が、上の神様みたいな、仏様？極楽浄土に、もう死なせて、極楽浄土に早く死んでおいでって言うけど、男の方はまだ死なせてない、現実と遠慮そうとしている絵なのかな。  
S：布が一体化している感じがして、女の人の顔も、誘惑しているように見えました。  
S：仲がいい夫婦かなと思っちゃうけど、女性には積極的な男性に近づいていて、男性は少し照れている顔に見えた。どっちがどっちの手つかからず、足もどっちがどちかよくわからないから、ポントに仲が良くって混ざり合っているように描いてるのかなと。それを仏様は見守っているみたいな、そういう絵なのかなと思いました。  
T：今、仲が良くって混ざり合っている、って言いましたよね。みなさんなかなか公の場で口にするのがちょっと憚られるのかもしれないけど、裸の男女が抱き合っている、ここでやっているのはもうアレじゃないでしょうか、ちょっとエッチなというかセクシュアルな場面に見えますよね。だから、言葉をやうまく言ってくれば、今のようにも、男女が「混ざり合っている」、男女が一体化しているという感じですよね。  
S：女性が多分肉体で、あの黒と赤の布が煩悩みたいなもので、男性がそこから必死で抜け出して自分で自由な人としての存在。仏さんが女を見守っている感じ。  
S：女の人の方はどっちかと言うと平面的に見えるけど、男の人の顔の方はかなり立体的に見えるので、もしかしたらそれは空想の人物ではないのかなあ。  
S：男の人が纏っている布は、天使の衣か仏様が纏っている袈裟のようなものに見えるので、あんな人間じゃないかと、神様とかそういう類の者のかなと思いました。  
T：何の解説もないのに、みなさん絵を見て、男の意見を聞いてくなくて、いろんなことをさらに考えて、話してくれましたよね。うん、ホントすごいと思う。でもこれ、ちょっとエッチな感じがするから、「ひょっとしたら性的な場面じゃないかな」とも思ってもう言いたい、というのがあってどうしていいのかねえ、難しいところだね。

【3】2009. 5. 20. (木)  
(Vol. 3, Lesson 3)  
1. 吉良春江『海』1929年、東京国立近代美術館  
S：女性の後ろだけ背景が違って、後ろの雲などもずれているので、別の写真・映像を撮っているものではないかな。  
T：描いてあるものに近代的なものが多い、もう一度言う。  
S：飛行船、潜水艦と近代的名ものの一まとめた絵なのかな。  
T：描いてあるものに近代的なものが多い、もう一度言う。  
S：飛行船、潜水艦、工場、船。  
S：工場と船台とか、大体港にあるものだと思うけど、港にあるものと魚という海中にあるものとが同じ空間に描かれている。飛行船を魚と一緒に描いたのは、飛行船も遠くから見ると魚っぽい形をしているからかな。  
T：他に描いてる形は？  
S：船も、ちょっと魚っぽい感じかな。  
T：流線型。潜水艦も、多少デフォルメしているけど流線型ですね。きっと画家は形にこだわって描くはず。形が似てる、呼ばれている。  
S：全体的に明るくて、女性が良い健康的で、あのポーズがちょっと自由の女神を思い起こさせるものと思ってる、全体的に開けた雰囲気がある。  
S：赤い船の隣に、朝日夕日とか太陽みたいなものが見えて・・・  
T：太陽にしては角ばってますよね、形が面白い。  
S：目が悪くてよく見えないんですが・・・  
T：なんだろうかな？ (スクリーンに寄って) ブイかな？機雷？機雷じゃないでしょうね。なんですかあんなで、それ？  
S：全体的に、朝の夕方の方なのかわからないかと思っちゃった。  
S：後の灯台と船が一緒のもののように見えて、女の人もしかしたら拡大されて描かれているのじゃないかと思っちゃった。  
S：左の機械の建物の近くにくっついて、魚が黒っぽくなっているって、水も黒っぽく濁っているようで、水が汚染されているように思っちゃった。  
S：飛行船とか潜水艦とか、ミスマッチだなと思っていました。魚などいるのに、飛行船などを描いたのはなぜかな？。現代の技術の進歩によって、人間はどんどん楽に、住みやすいようになつて、生物は海が汚らなっていく環境になっているのだから。右の切り抜かれている絵の方は、灯台があるけど、工場とか自然破壊とかいってもいいの無いから、ちょっときれいな感じの空を表しているのかもしれないか。  
(13分10秒)

2. ビール・ビュヴィス・シャヴァヌ『幻想』1866年、大原美術館  
S：人の肌の色が全体的に白く、生き生きとした感じが感じられない。

S：馬も白く、下の方の人は花を挿んでいる、上の方の人は馬と触れ合っている、自然と戯れている。人物も風景も青白くて、不気味だな。  
S：あの女性は、先ほど馬と戯れていると言ってくれましたけど、何をされているかわかりますか？  
S：・・・

T：手を上げてますよね。何をされているかわかりますか？  
S：触ろうとしている？  
T：そういう風に見える。最前列あたりの人、誰か説明してあげて。  
S：顔をあげている？手に細いのを持っています。  
T：手に細長いものを持っているんですよ。手から直線的なものが見えますね。そこから先に続いている。曲線が、弧を描いている。植物の蔓というか馬とつながって、その手が馬の首に伸びているんですよ。馬の首の向こうに回りこむように。馬に羽根が生えていてペガサスみたいな感じで、人間も白いの、天界にいる、天使というイメージ、ペガサスも人間界はくなくない。  
S：女の人が、あれをペガサスの首に巻いているので、ペガサス自体、実在しないものなので、描きようとしているのではないかと。  
S：ギリシア神話にこそまて詳しく訳ではないんですけど、ペガサスが出てきたんだから、たぶん髪の毛が蛇で顔をお見と右にされるというメデュサを倒したあとのペルセウスの髪をたまたまかいたのじゃないか。  
S：右下の男の子が花を挿んでいる。花を挿むということは、別の視点から見ると、自然を壊していることになるのかな。ペガサスがすごく怒っているように見えて、野生のものに描きようとしているのなら、この絵は、自然に対する人間の暴力みたいなものを表しているのかな。  
S：上の方の白いのは、血が通っていない間違ってイメージじゃないか、自然に対する思いがなくていて、自分のことしか考えていないという人間の冷たい部分を描くために、わざと真っ白く描いている。  
(24分30秒)

3. 中山岩次『・・・』1932年、兵庫県立美術館(寄託)  
S：手前のカーテンみたいなものが、その後には女の人が出て、その後にはまた人が2人いて、それを手前に物を持って来て普通に撮っているんじゃないかと、手前のところにお金や紙みたいな物やお皿が置いてあるように見えて、それを普通に撮ったら、くっついてない限り落ちると思うけど、それが普通にさりげなく置いてある感じなので、どういう風に写しているのかな。赤い絨毯が、あんな綺麗に敷いてある感じかな。  
S：小さい人二人が、ガラスのようなものを恐れているような感じ。あの人二人から見れば、大きいテーブルのようなお皿のようなものの上にあるお皿や皿皿は見えないし、ガラスの下の台？何かつくとも見えなくてそれが何かわからないかと思うから、本当に恐れているような感じ。  
S：たぶんフォトモンタージュとかいろいろの写合の手法だと思う。真ん中のコップだけ上から描き足したみたいに写真っぽくないのが不思議。お皿が置いてあったり、パイプが置いてあったりするところから、後の二人と手前の二人の結婚かな。  
S：右で俯しているように見えた女の二人とガラスなどの大きさがすごくアンバランスな感じ。ガラスよりも女の人が小さく、遠くから小さく描かれている、違和感を感じ。  
一枚目の絵のような効果。  
S：右側の二人が女の人の目に驚いている。光の具合で気味が悪い感じ。  
S：右側の顔の輝いている女性が見えなくてお皿が写って、アイングラスがお酒で、奥の女性が出た人で、皿や皿皿が料理などを思い出させて、飲み屋とか居酒屋での記憶がこちゃになったような写真。  
S：酒とタバコとお金と人の小さな存在と、明るく照らされている大きな女性と、別のグループになるのではないかと。黒い出しされている方の女性は、表の方から、グループの首尾を見ているような印象。  
T：男性的な世界を覗き込んで、それが女性。おもしろいね！この作品の作者、どこの国の人だと思いますか？日本人か、日本人じゃないか？日本人だと思う理由は？

S：描かれている人が外国人だな。  
S：カーテンみたいな、阿蘭陀の布の柄がちょっと日本っぽいように見えたので、女性も阿蘭陀の踊っている女性が描かれているってお礼が書いてあるって、この辺が漢字によってすね。 「裕」「晋」の「裕」と「晋」です。何十円か、いや十円だ、ここに算用数字で10で書いてあって、日本のお札が使っているから、日本人が作った作品かもしれないですね。  
(42分38秒)

【4】2009. 5. 27. (木)  
(Vol. 3, Lesson 4)

1. ヘレン・レヴィット『メキシコ1941』1941年、和歌山県立近代美術館  
S：男性と女性の目線が合っていない。視線と表情を見ると、女性には女性に微笑みかけてやんと女性の向き合っているが、女性の手に触れているし、でも女性の目は男性の顔を見ていないので、照れているかと、男性の目とあまり好きじゃないかの。  
T：この2人の関係って、どんな関係だと思いませんか？  
S：同じ集落の近所の人。夫婦という感じではないか？  
S：男の人が女の人の手を知っているけど、女の人は男の人を見ていないから「誰だっけな？」、上の空という感じの目線をしているのでは。  
T：2人の関係は？  
S：たぶんどっかで会ったであろう知人だと思います。  
S：私はたぶん夫婦だと思ってる、女性の方がたぶん認知症が何かで、記憶の方が薄れて、女性の人が介護しているんじゃないかな。  
S：視線が合っていないという点で、男性が女性を支えているように見えるので、女性は目が見えないんじゃないかなと思っちゃった。  
S：背景が結構荒廃しているので、発展途上国の方ではないか。男性と女性が時計やピアスをつけているので、比較的裕福なあたりかな。  
S：女性はあまり裕福じゃないかと、男性が帽子を脱いでいるので、男性だけ裕福で、女性は普通、ちょっと賢いかなって。女性が視線を合わせていない。お金をもとにゆずってる？写真自体も白黒だし、あんまりいい印象はなかった。  
S：男の人が後の壁にすがっている。僕が介護する人の立場だったから、もっと前のめりになつて、やさしく接するが、この男の人がは態度がよく、女の人心配しているように見えない。男の人がそこに立っていて、通りかかった女の人の声をかけたんじゃないかなと思っちゃった。  
(9分30秒)

2. ティートゥーン『パックス祭』(部分) 1523-26年、ブラド美術館、マドリード  
S：大きい絵の一部かなと思いました。二人の距離がとても近いし、周りの人の足や手があるし、周りにいっぱい人がいる中の2人が映っているのだからと思っちゃった。  
T：鋭いね。人の絵を知ってる？この絵から推察したんですね。すごいですね、あんな種明かしの教義しようと思つてました。この絵、そのとおりです。全体がどんな絵かというのはちょっと置いて、この部分だけ見て語ってみましょう。  
S：大勢の中で手前の女性が奥の服の肩に手を置いてるのよに見え、引き寄せって何か耳打ちしているよう。肉語話をしているよ。  
S：左側に置かれた手。私は、向かって左側の人の手とはあまり思えない。長肢的にもおかし。あの手は誰の手のかな。  
S：右の女性が何かちょっと不満足な表情に見えるので、何か右の女性にとってはあまり気の進まないことを勧めているのではないかと。  
S：陰になっているから更にそういう悪くも吹き込んでいるように。  
S：私は右の女性が左の女性に話しているのだから。右の女性が手を上げていて、それが身振手振りを使って、たとえば今のところがあったことは身振り手振りを使って話していて、それを左の女性が聞いてあげている。  
S：話をしている割には口を固く締めてるような感じがするのよ、話をしているのではなくて、相手の左肩を叩いて見えているよ。  
S：両方とも比較的露出度が高め好き、お互いがよくあつていように見える。男性関係についてにかかっているのではないかと。切り抜かれた絵ならば、元の構図の中に男性が入っていたらおかしくないか。  
T：鋭い、露出度が高い服を着て、男性がいて、女性がいて、ってどういう場面、たとえば？  
S：舞踏会とか、そういう感じですか？



T: 舞踏会。他には?可能性としては。  
S: パーティ。  
T: 他には?  
S: わからないです。そういう賑やかな場面じゃないかなと。  
T: そうですね。  
S: 右の女性の左手が上になっているが、私は、身振りで話している感じがなくて、誰かに引っ張られているような感じを受けた。その女性が、最後の忠告みたいな感じで、左の女性が「気を付けて」みたいなことを言っているんじゃないかなと。  
S: 右の女の人の前にある手は、横の方にいる男の手ではないか。  
T: 男の人はどこにいる?  
S: 左の・・・ネクタイみたいに見えんですけど・・・  
T: 見えませんよね。白と緑のストライプのネクタイの襟元みたいに見えます。(25分09秒)

3. ルネ・マグリット『感傷的対話Ⅱ』1947年、川村記念美術館  
S: 1階の窓が傾いていて、中心の何かがわからないもの。左の上にマグリットと書いてあるように見えるので、マグリットのシュールな作品なのかなと思いました。  
S: 真ん中にある2つの白いものが、チェスマイ形な形で、大砲みたいなのが上に付いていて、小さな丸が目に見えて、大砲の口みたいな部分が口に見えて、速吠えをしているように見えた。

S: 鏡子みたいな感じ、高さに違いがあるの。  
T: 鏡子が何してる?さっき速吠え説があったけど。  
S: 話しかつてみたかな。  
S: 傾いた窓は、普通カーテンも一緒に、重力に任せらわず下に落ちるはずだが、カーテンも窓に付いている感じがあるので、切り取られて下に落ちた。  
S: 前のチェスマイみたいな2つの速吠えが、後の窓を、その速吠えの超音波みたいなのが空間を歪めて音が曲がったような感じに見えた。  
S: 海がすぐ近くに見えて、風も吹いていて、朝か夕方、あの2は、海の見えるところの公園などよく置かれている置物かと思う。なぜかと言うと、これは海の方から吹いている風かと思うので、夕方海の方向の温度が高くて、冷たい方から暖かい方に風が吹くので。  
S: 話窓が傾いているのと、赤い布を見ても、風がすごく強いということがわかるので、物が傾くほど強いことを表したんじゃないかな。  
S: 下の赤い布を見ても、その地域は風が強い地域かと思った。真ん中の変な大砲みたいなものは、強い風を利用して音が出るのではないかな。(38分36秒)

【5】2009.6.3.(水)  
(Vol.3, Lesson 5)

1. ミケランジェロ・ピストレット『ぼろざれのヴィーナス』1967年、豊田市美術館  
S: 服の山、洗濯物の山のように見えて、真ん中から立っている像がたぶん女の人、洗濯物ということから、主婦かな。でもその女の人の素材が彫刻なので、主婦っぽい生活感と真逆の神聖さ、俗世間から離れたものを同時に感じさせて、不思議なギャップ。  
T: 何で出来てるって言った?  
S: 石膏・・・

T: 石膏みたいなものですね。石膏のようなもので出来た彫刻。  
S: 服の山があって、女性の彫刻、女性がよって迷っているみたいな感じに見える。「どの服にしようかな」「あんないいのの中から選んではいけない」「みたいな感じ、今の社会の、情報がいっぱいあって、どれがポイントかみたいな、そういう感じ。  
S: 女の人の持っている布は、積まれている色とりどりの布のように、何色にも染められる、その女のは今から何色(な)にしろ)にでも染まれるような、という感じ。  
S: 洗濯物の山だったとしたら、「こんなに溜まってたの!」と驚いているような表情を、前か後ろとしているように。驚いて真つ白になった、っていう感じかな。  
S: その女性が持っている白布みたいなのは、その女性が着てる服を脱いで、その洗濯物の山に置こうとしたけど、あんなにも前着た、その女性の像が洗濯物の山から離されて置かれていんじやなくて、足下まで洗濯物が来てるから、それでちょっと戸惑っている感じの像なのかなと思いました。  
S: 山がとぎとぎに一体化して、人の頭が山から飛び出たりしていないことから、衣類と人の一体化を表しているんじゃないかと思いました。  
S: 迷ってるのだったらもって周りに散らした方が迷ってる感じが出るし、選ぶのだったらもって遠くから見んだけども、距離がないことって。足下まで来てるので、今にも飲み込まれそうな感じがした。  
S: 積まれている洋服の色が、あんまりきれいじゃない。選ぶんだらもって鮮やかな色の方がいいんじゃないかなと。だから大量消費の現代みたいなものを表しているのかなと思いました。(11分23秒)

2. トニー・クラッグ『東京-ヴァットール』1982年、東京都現代美術館  
S: 以前、中学校の美術の教科書で見たことがあんな感じですけど、その時にも疑問に思ってた。なぜ電話を下の面に置いていたか。普通だったら電話は台の上に置く方がいいと思うから、これを作った人の意図がわからないかな。道具で人の形を作っているのはおもしろいなと思うけど、どうして電話を床に置いたのか。  
S: 人の形を作ってるのが、グラクタだけですけど色がきれい、それを見て、この人は、くだらない話ですけどすごく楽しんで話している。  
T: うまく言ってくれたね。グラクタ。どうしてグラクタだと思った?  
S: 概感で、タイパが半分を切ったので、パンみたいなもの、ごちゃごちゃ細々してどうでもいいものばかりだけど、色は全部きれい。  
T: ほかに何が見えますか?  
S: 空き瓶みたいなもの。  
S: 足所にある細長い茶色い木の棒みたいなもの。  
S: 私もしず立っているのか?と思った。最初はたぶんその人は座って話してんだと思うけど、話の流れの中で、すごく嬉しいことがあって、思わず立ちちゃったという感じで、下に電話があった人物が立っているんじゃないかと思いました。その人物の色が明るいので、すごく嬉しいことがあったというイメージがあるな。

S: これは人が電話をしているように見えるけど、人を構成している物たちは、白い壁にただ貼り付けてあるだけなのに、物と物の間に人のシルエットの組みたいものが見える気がして、不思議な感じですよね。  
S: 人物を商品で表している、電話も旧式のタイプなので、全体的にも使われなくなった商品みたいなイメージでこの作品を作っている。  
S: 人物が壁に描かれている。貼られているし、電話が地面に置いてあるのは、その場所に人はいなくて、留守電話になっていたんだけど、人は影、電話をしている相手で、面白い話があるのになぜ出ないのかなって言う。  
S: ピンクの電話はたぶん旧式だと思うから、情報伝達の幅が広がったということ、人物は壁に描かれている、でも見えないで、きれいだけど、貼り付けられたきれいな言葉?みたいな感じで、だけど自身はグラクタっぽくて自身が伴っている、きれいな貼り付けことだと自身に伴っていないことを話しているのかなと思います。  
S: 人の体勢が背中が平気かなと思ってた。電話もピンと張ってる。そんなにきついなら座ればいいのに。あれ以上立てないから前か後ろかになっているのは、そのきつい体勢が気になって、わざわざ立てて、きつくて、面白くないのかな、内心は面白くない、きついんだらうなと思って、話の内容も面白くないし、ぜんぜんきつくて、もう切りたんじやないかな、話をもう終わりたいと思っている。  
S: 今コードがピンと張って、たぶんコンセンタが屈かない状態、電線も結構ギリギリの位置だとする。首筋を張って、でも一生懸命話してるから、電気と離れられない現代の人間、人間の身の周りにいろいろ便利なものがびっしりあって、電線などからも離れられなくなっているのを象徴しているのかなと思いました。(27分25秒)

3. ビル・ヴィオラ『クロッシング』1996年、Video/sound installation Photo: Kira Perov (約30分見せただけ)  
T: さあ、感じたこと、考えたこと、意見、連想、疑問、何でもいいですよ。

(★26秒、拳なし、沈黙)  
T: あれ、さっきまで見せてくれた知性と感性はどうしたんですか? (笑) それとも作品がいないんですか?それとも作者さんで来い、って? (笑)

(★ここまで計52秒間拳なし)  
S: 見ている方が今から殺されそうだなと思った。怖くていうか、たとえば映画のワンシーンのような絵だ。たとえば人間関係のものが降臨したみたいな気がして、出てきたとかか。普通の光の当たり方じゃない気がする。自分も光を差してる。頭のあたりが、その辺の光か。その辺の光も人間とは違っている。その中で、ちょっと怖い。  
S: 神に召されている、吸い込まれている。真ん中にいる人は、もやもやとしてるところに吸い込まれていきそうなんかなと。ポーズもふわっとした感じのポーズに見えるし、怖いというイメージもあったんですけど、私まで吸い込まれそう。  
S: これは列車の踏み切りで自殺した人に見えて、雨の中で。後の光が、走って来ている列車の光が山に見えて。たぶん男性だと思うけど、着ている服も普通のカラーカーテンみたいに見えるから、周りの暗さとちっちゃい光のかりから、むしろあまり神々しい感じではなくて、今から死ぬのかなという感じの方が強かった。  
S: 水が結構強い勢いで上からかかっているように見える。顔の部分がすごく白くしきがあがっていて、頭にかかる衝撃がすごいんじゃないかと思うけど、格好が普通に立っていて、足がそろっているの、受け止めているような感じがした。  
S: 白い点々水しきに見えたので、この男性は滝の中で修行をしているんじゃないかと思う。他人は「怖いイメージ」って言ったので、私にはどちらかと言うと救世主みたいに見えるました。  
S: 男性の正面から水が勢い良く当たってきているよう。水って普段、私たちの味方、そんなに悪いことをするものじゃない。でも、これはなんだか水の殺意みたいなものを感じて、普段柔らかなって、危布を加えるようなものではないかな。余り恐怖を感じた。男性は水を受け止めたところで行っているように見えた。それとまたすごく怖いなあと。  
S: 水が滝に見えて、男の人も髪を丸めているように見えたので修行の人かなと思った。先生が言ったように、水というものはいろいろなものを洗い流してくれるというイメージが僕にもあって、修行で自分の欲望みたいなものを水をよって洗い流してもらうというところで滝に打たれているのかなと。周りが黒いのは自分の影、真ん中から強い光が当たっているの、その修行を終えて、欲などを取った瞬間のシーンかな。  
T: 修行をするのと、裸(みそぎ)、解脱。そうすると水のプラスのイメージとつながってくるのか。清めるとか。ああ、おもしろいな。  
S: 手や顔で擦ったのがすごく気になる。水が落ちていて、人の横に2本、線があって、洞窟の入り口家庭、上のは壁の縫い目みたいな、光の当たり方だと思った。下の線はモーターっぽくも見えないし、水にしては滑らかな。あそこはたぶん光が当たっているんだらうかと。ほんとにどういふ風に振っているんだらうかと不思議。  
S: もしかしら前を向いて行くのかもしれないんですけど、あの男の人、緑のところがリュックの背に見えて、向こう側に行くイメージ。雪山に今から行くみたいなイメージ。白いは雪の日の夜にライトが当たったものすごく明るく感じる感じで、周りが粉雪が舞っている、この人は今から雪山に行って、すごく危ないんだけど、自分はあんまり危ないと感じてなくて、むしろここに行きたいと思っているのかな。

S: みんな神聖なことをおっしゃってたんですけど、私はばかかなことを考えてしまって、これは前ゲームか何かで、水が降って来て、男の人はたぶんスキニッドで、光を当たったから顔の光が落ちちゃって、意外と神聖な感じに変わったんじゃないかなと思います。(46分58秒)

【6】2009.6.10.(水)  
(Vol.3, Lesson 6)

1. トレイシー・モファット『なにかもう少し#1』1989年、Courtney Roslyn Oxley Gallery, Sydney  
S: これは絵ではないです。「写真みたいな絵」というのもあるけど、これは写真です。(約40秒後)  
T: では、いきましようか。どなたでも、どうぞ。

(拳無無15秒経過)  
S: 写真も普通に撮った割には、コントラストも、彩度も相当高いような気がするんで、それで余計めかかっているような感じがした。  
S: いくつかの世界観が重なっている気配かなと思って、背景と、真ん中からちょっと余りにいる男の人が農作業をしているみたいな感じで、それが一つ、酒屋のような建物と一番目立つ女の人でもう一つ。最初、左にいる男の子の2人は背景の世界観と一緒ののかなと思ってたけど、その割にあまりはききりと描いている気が、ぶれてるような感じがして、これでもまた一つの世界観なのかなと思ったけど、その割にはみんな中央の女の人を見ているように見えるし、すごくミスマッチな絵だけど、どこかでつながっているような感じがしました。  
T: 他に?  
(拳無無6秒経過)

S: 写真を着た女の人を見送る図、みたいと思いました。なぜかと言うと、子どもたちは拍手をしているように、「行ってください!」みたいな感じで、拍手をしているからぶれているのかと、動いているからぶれているのかなと思った。そして、帽子を被っている男の人は、見送っている感じもするし、白いドレスを着た女の人「がんばってください!」みたいな視線で後押ししているような感じがしました。  
S: 中央の女の人か、都念に行く予定が本当にあるかわからないけど、スターを夢見ているうか、だからあのポロポロのチャイナ服が偶然手に入っちゃって、表情からもスターを夢見ようとしていっているような感じが受け取れるので、チャイナ服を着てスターになりたくないかな。右の白い服を着ている女性は、「またやっつてよ!」みたいな呆れた顔で見ている。(13分30秒)

2. マックス・ベックマン『レリング』1921年、青島県立美術館

S: 新聞に描いてある風刺画みたいな感じ。何の風刺かちょっとわからないが、真ん中で男性2人が抱き合ってるっていうか、闘っている。手前の人や左端の女の人をを観察して賭けをしている。競技場という感じ。  
S: 男の人たちが争ってる場所が、ステージの上みたいな。周りに2階、3階があって、観客がその間かミュージカルを奏そうに見える。  
S: 私これ劇場とかステージに見えて、上のカーテンみたいな二つが掛かっているところは舞台の幕、ステージの板がわかっての辺りに、指揮棒を持っている人、劇場の下に段差がある、そこがオーケストラがいる。後の絵もバックの背景、板か何かの描いてあるように見えました。  
S: 真ん中の開いているように見える男の人2人は、その劇のストーリーにはないのに、些細なことや喧嘩によって、劇の中に喧嘩した。その中で、右の座っている人って、怒って、見ような顔で見ている。観客が喜んでいるように見える人たちは柄が悪そうに見えるから、本当はストーリー上に無いものだけ楽しんでるような。





2. ジュン・グエン=ハツシバ『ハッピー・ニュー・イヤール：メモリアル・プロジェクト ヴェトナムⅡ』2003年  
 S：非常に色あいがきれいな作品だと。白と青をバックで、その黄色というか黄緑色が映えている。光の加減をうまく思って海の中の特徴をよく描けている。描けているって言うか写している写真、たぶん写真だと思うんですけど、写真かなと思いました。  
 T：写真じゃないかって言うんですけど、これも言うた方がいいかな？これ元はビデオ作品らしいんです。映像らしいんですよ。だから本当は動いているんですけど、その一面面だから写真みたいなものですね。という風にしてみると、また見え方が違ってきますかね。  
 S：生き物が何か、竜みたいなものかなと思った。描まてているのがわからないんですけど、竜は昔から沼とかに棲んでいるというイメージで、沼には海みたいなきれいな色の水だなと。  
 S：たぶん泳をしている途中だと思うんですけど、その方法が、色彩が現代的な割には、モリとかロープとかを使ってすごく原始的だなと、一見普通に泳をしているように見えるけど、描まていている動物が、普通には無いはずの動物で、色彩も海の青を背景にしてとすごく浮いて見えてそこがちょっと不気味だなと思いました。  
 S：描まてているというよりは、竜の形じゃないんですけど、祭りとかでよくこう、あの棒を動かして竜が動いているように見せたりするような感じに見えたりするんですよ。  
 S：こっちにあるのが扇風機みたいに見えるんですけど、あれで竜みたいな人形を動かして、泳いでいるように見せるのかなと思いました。  
 S：僕が中学時代に、一つ上の先輩が体育祭で、ほぼ同じようなことをしていた。僕が中学時代に見たのは相当動きが速かったんですけど、水中なんです、さっき言われたとおり抵抗もあるんで、相当ゆっくりな電を表現できるんじゃないかと思いました。  
 S：光のすくきれいな当たり方と影を見て、それから撮影したのかなと。ほんとに光の使い方が巧くて、竜の肌の色がきれいに見えて、すごく印象もいいなと。  
 S：どうしてスクリーンを画面に写す必要があるのかなあと私思いました。  
 S：トルコにネッシーがいるとかあった、人がネッシーを動かすのと同じように、この人たかも竜みたいなものを水中で動かして、電だけ水面に上げて、伝説的な生き物が実際にいるんだというのを表現しているところを、水中から撮影したのかなって。  
 S：画面をスクリーンをまたこう話。これはまた別に他のところで本当の撮影をしていて、映像を撮っている過程をまた別に撮っている・・・クリエイト・オブ・ムービーというか、だから機材とかがはっきりと映っているのかな。  
 S：大掛かりな作品だなと。水の中に人が、見えるだけで5、6人いて、水中での作業は力も要るので、アシスタントを雇うのも大変だろうし、水の中にあいものを入れると、絶対壊れたりすると思うんですよ。だから素材が何なのかな気になって、スクリーンも個人的な所有物じゃないだろうし、本当に大掛かりなものなんだなあ。  
 S：なぜあえて水の中でのやるのかっていうのをずっと考えてたんですけど、みなさんが水の抵抗とか、水面のとろから光とかの話を聞いていて、水の抵抗によって余計電を動かす力が必要なので、余計それで電力が強さとか、光が来ることによって、地上では出来ない、雲の間から光が差す状態っていうのを、海の中では似たような状態を作ることが出来ると思うんですよ。それで余計電が力強い昇天していくような状況作れるのかなあとあって、その水の中でやることの意義を考えていました。  
 S：みんなの電のイメージが空を飛ばすように思うんですけど、電は水神とか青竜とかで、水の神として崇められているから、それを表現するために水の中でやっているのじゃないか。(28分25秒)

3. マックス・クリンガー「不安」『手袋』より、1893年  
 S：非常に不気味な作品だと思います。右側には袋の上に生首みたいなものがある、中央

と左側からは手が何本も飛び出ているようになっていて、何を表したいのかさっぱりで、全体も真っ暗で、とても不気味な作品だと思います。  
 T：何がどこにあるか、もう一回言つて。  
 S：中央と、左からも2本。  
 T：ああ、左にあるよね。首に対して非常に大きな手だよ。真ん中にある手っていうのは、これ？これ？  
 S：そこが何本かの指に見えて  
 T：何かをつかんでいるよ。ここに人物がいますよね。  
 S：さっき左から手が伸びているの言ってくれたんですけど、右の壁よりも前で首よりも後にオブジェみたいなものがあるんですけど、それと左の手の形が一緒のような感じがしたんですけど、だから、何か示したいものがあるのかなと思いました。  
 S：ペラッと見て思ったのは、これは場所はどこなんだろうということですよ。左側の下の床、フロアのところだけを見ると水の上のようにも見えるし、右の生首がおいてあるところを見ると、普通にシーツの上の上のようにも見える。その海の波の波のようなものもつながっていて、場所がどこかわかりにくくさせているなと思いました。  
 S：水みたいになっているところがあるので、洪水か何か起きて、家の中に水が入ってきたのかなと思いました。右の人が悪夢か何かで苦しんでいる、それを真ん中の人が助けに来たのかな。  
 S：私は、右の顔が、生首ではなくて、膝を立てて寝ているように見えたんですけど、人が、この場所は、なんとなく密室のような気がして、第二次世界大戦のユダヤ人のガス室みたいなものをなんとなく思いました。  
 S：「ノアの箱舟」を思い出したんですよ。舟が壊れ始めて、浸水し始めていて、真ん中にいる人はそこに寝ている人を起こそうと頑張っているんですけど、まだ右の男の人はベッドにいますので、浸水に気がつかなくて寝ているままで、左の人はもう流されていって、もう全無しか見えない、という風に見えて、周りにもあるものは、舟にあったものが部屋の中にむちゃくちゃに入っていたりする感じで、あともう少しで全部沈んじゃうっていう風に、寂しい感じを受けました。  
 T：そういう、もう大変な場面、洪水で「ノアの箱舟」も連想される。悪夢にうなされているか、とにかくあれは寝込んでいるんだね。僕も今の意見を聞きながら思い出したな。ディズニーの『ファンタジア』を思い出したんですよ。水がどんどん増えてい。そういう場面ですよ。  
 S：この絵は黒と白しか使っていないので、ピカソの『ゲルニカ』っぽく感じました。ピカソの『ゲルニカ』にたとえるなら、ピカソは、空襲から逃げ惑う人たちが、空襲で死んだ人たちを描いたりして、そのむねとして強烈な感情を、黒い背景と白い人々や手を装束時に使ったので、この絵もたぶんそれをイメージして作ったのかなと。でも手しか無いので、たぶんこの手で、助けを求めるとか希望を、なにか握っている手があるじゃないですか、あれは何か、希望をつかもうとして、助かろうとしてそのまま死んでしまったっていう感じの手かなとか、いろんな人の意思とかがこの絵の中に出てくるんじゃないかと思ってます。  
 T：(中略)手袋がこの絵の非常に重要なファクターなんですよ。どんな話かというのは、またあとでデータのプリントを見てみてください。何らかのお話があるってことはわかりますよ。何らかのストーリーがあって、その場面というのはいわゆる、これ、元は10枚の連作の版画なんだそうです。さっき指摘してくれたように、この人がうなされているんですよ。その元は手袋なんですよ。じゃあ、どういうストーリーかというのは、あとでそれぞれ見せてみてください。今日の3点の共通点は水でした。ありがとうございます。いやー、すごい。(42分11秒)

## 【資料2】Vol. 3 アンケート集計結果

図版	キットとの対応、作者名等	設問1(1)	設問1(2)	設問2(1)	設問2(2)	設問3
1a	Vol.3 L.1 マレーヴィチ	6	2	3		
1b	Vol.3 L.1 森山大道	6		6	2	1
1c	Vol.3 L.1 エルンスト	3		12	3	
2a	Vol.3 L.2 モネ	2	1	6	1	
2b	Vol.3 L.2 シャガール	10	1	4		2
2c	Vol.3 L.2 《インドの聖者ガンタバ》	3		2		
3a	Vol.3 L.3 古賀春江	8	2	1		1
3b	Vol.3 L.3 シャヴァンヌ	5	1	2		1
3c	Vol.3 L.3 中山岩太	3		13	2	2
4a	Vol.3 L.4 ヘレン・レヴィット	6		3		3
4b	Vol.3 L.4 ティツィアーノ	2	7	1	1	
4c	Vol.3 L.4 マグリット	6	2	9	2	1
5a	Vol.3 L.5 ミケランジェロ・ピストレ	11	1			
5b	Vol.3 L.5 トニー・クラッグ	9	4	2	1	2
5c	Vol.3 L.5 ビル・ヴィオラ	3		9	3	1
6a	Vol.3 L.6 トレイシー・モファット	6	1	5	1	
6b	Vol.3 L.6 マックス・ベックマン	5	1	1		
6c	Vol.3 L.6 マンテーニャ	11	2	1		
7a	Vol.3 L.7 北野恒富	6	1	5	1	
7b	Vol.3 L.7 浅原清隆	3	2	7	3	
7c	Vol.3 L.7 ロバート・ウィルソン	1		6	2	1
8a	Vol.3 L.8 亀井藤兵衛	4		4		
8b	Vol.3 L.8 ジョージ・シーガル	5	3	7	1	3
8c	Vol.3 L.8 森村泰昌	7	1	4		3
9a	Vol.3 L.9 ルイーザ・ヴァイダル	4	1	1		4
9b	Vol.3 L.9 ポール・デルヴォー	5	2	6	1	2
9c	Vol.3 L.9 エル・グレコ	5	1	3	1	
10a	Vol.3 L.10 フラゴナール	5	1	5		
10b	Vol.3 L.10 ジュン・グエン=ハツシバ	6		1		1
10c	Vol.3 L.10 マックス・クリンガー	1		12	4	